

保育者養成校における音楽教育 2 —自主的なピアノ練習の促進に向けた取り組み—

東 真美子 小澤 拓大 蓑部 初

Music education in early childhood education course 2 —Strategies to promote the voluntary piano practice—

Mamiko HIGASHI Takuhiro OZAWA Hajime MINOBE

キーワード：ピアノ初心者 自主練習 動画配信

I. 自主的なピアノ練習の促進に向けて

図1にある通り、本学学生のピアノ初心者率（全くない～1年未満）は増加傾向にあり、今年度は半数以上の学生が初心者として入学をしている。ピアノ技術は保育者にとって必須なものではないだろうが、多くの保育現場でピアノを用いた保育が行われているという現状がある。一方、児島・古本（2015）は保育者が自身の音楽活動に自信が持てない場合には、自身の保育に対する満足度が低下することを報告している。これらを踏まえると、学生時代のピアノ弾き歌いへの取り組み度合いは、就職後の適応や離職に関わる可能性が考えられる。そして、昨今の保育者不足の現状を加味すると、学生に対して“ある程度”のピアノ弾き歌いの技術を修得させることやピアノ弾き歌いに苦手意識を持たず、就職後も積極的に取り組む姿勢を持たせることは、保育者養成における重要な課題の一つとして考えられる。

筆者（第一著者）は、本学の科目「器楽Ⅰ・Ⅱ」の担当者としてこのような問題意識の下、学生のピアノ弾き歌いの技術向上や練習意欲の向上に様々な形で取り組んできた（東, 2017, 2018）。それらの取り組みに一貫していることは、「学生の自主的なピアノ練習を促す」ということである。学生の自主的な練習を重視している理由は二つある。

一つ目は、「器楽Ⅰ・Ⅱ」（ピアノレッスン）の指導形態である。本学では、90分の授業で1人の担当者が6人の学生を指導している。グループレッスンと個人レッスンを隔週で行われるが、どちらの場合でも1人につきマンツーマンで指導できる時間は15分程度である。このマンツーマンの指導がより有意義なものとなるためには、学生が授業外に自主的にピアノに向かい、練習をすることが重要である。

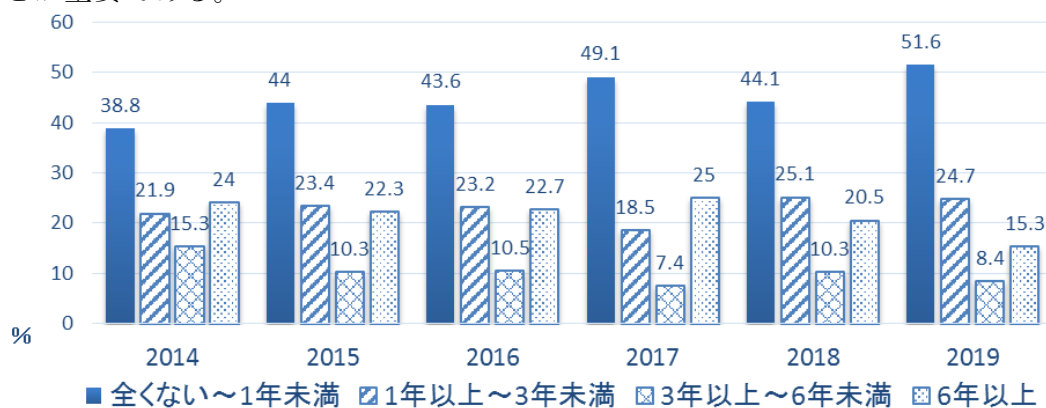


図1. 本学保育科学生の入学前ピアノレッスン歴

二つ目は、学生にピアノ弾き歌いに対する苦手意識を持たせることなく、就職後も積極的に取り組む姿勢を持たせたい（練習意欲の向上）からである。就職後にも「園の歌」を練習したり、「子どもの歌」のレパートリーを増やしたりする必要性は出てくるであろう。また、音楽が好きな保育者から、子どもたちに音楽を通じた情操豊かな保育や教育を行ってもらうためにも、積極的にピアノ弾き歌いに取り組む姿勢を育てたいと考えている。

以上の理由から筆者らは学生の自主的なピアノ練習を促したいと考えているが、それには少なくとも二つのアプローチが考えられよう。

一つ目は、「学生の現状にあった課題を設定する」ということである。学生にとって難し過ぎる課題を設定してしまうことはピアノ練習意欲を阻害してしまうと考えられる。このようなアプローチとして、東（2017）では「子どもの歌」弾き歌いの使用教材に着目し、ピアノ初心者でも取り組みやすい左手の伴奏が易しいものが多く掲載されたテキストである『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』を本学の「器楽Ⅰ・Ⅱ」に取り入れた。また、伴奏部分において、左手の位置が左右に動かないで音符と指番号を固定した状態で弾ける楽譜や、コードを和音静止型で弾く楽譜をピアノ初心者の学生に弾いてもらってヒアリングを行い、そういった楽譜を取り入れることも示唆した。また、東（2018）では、学生の自然発生的な音域を考慮した調性で左手の音符と指番号を固定した状態で弾ける楽譜を「器楽Ⅰ」の試験課題曲として取り入れた。

二つ目のアプローチとしては、「学生が設定された課題に一人でも取り組めるような支援ツールを作成すること」が考えられる。学生の現状に即した課題を設定したとしても、その課題に学生が取り組めるような適切な援助をしなければ、当然ピアノ練習意欲の向上は望めないであろう。よって本論では、後者のアプローチの視点から学生の自主的なピアノ練習を促す方法について検討する。

Ⅱ. ピアノの練習に関するアンケート調査

1. 対象者と調査時期

2019年度保育科1年生38名に対して質問紙調査を行い、38名から回答を得た（回答率100%）。調査時期は2019年12月であった。

2. 調査内容

質問は1.～5.であり、1.は入学前のピアノレッスン歴を選択式で回答、2.は、ピアノの練習でつまずきを感じる時について複数回答可能な選択式で回答、3.は、ピアノの練習中に該当曲を弾いている手元を写した動画をスマホで視聴できるとしたら参考にしてみたいと思うかについて選択式で回答し、その理由を記述、4.は設問3.で「思う」を選択した人のみ、参考にしたいと思う動画を、必要性を感じる順に3つ選択する形で回答、5.は、ピアノの練習に際してこれまでに参考にしたことのあるものについて複数回答可能な選択式で回答するものであった。

調査は無記名による質問紙を用いて行った。また、調査のまとめを公表することはあるが個人が特定されることはない旨を明記した。

3. 結果

- (1) この調査に参加した学生の入学前ピアノレッスン歴の人数の割合は、図2に示すとおりであった。本学全体の割合（図1参照）と比べ、少々「3年以上～6年未満」が多いが、「全くない～1年未満」が他の倍以上を占めており、類似していると言えよう。

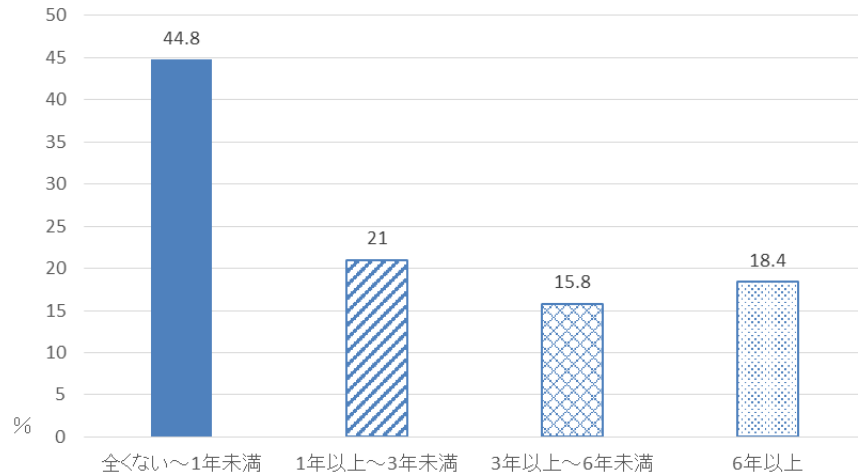


図2. 本調査に参加した学生の入学前ピアノレッスン歴

(2) 設問2.ピアノの練習でつまずきを感じる時については①～⑤の選択肢を設け、複数回答可としたところ、表1のような結果になった。

表1. 設問2. (ピアノの練習でつまずきを感じる時はどのような時か) に対する回答

選択肢	全体数 (38名中)	入学前ピアノレッスン歴ごと	
		全くない～ 3年未満 (25名中)	3年以上 (13名中)
① 音符(階名)がすぐに読めない	14名 : 36.8%	13名 : 52.0%	1名 : 7.7%
② リズム(音の長さ)がよくわからない	18名 : 47.4%	13名 : 52.0%	5名 : 38.5%
③ 指番号が合っているのかわからない	13名 : 34.2%	11名 : 44.0%	2名 : 15.4%
④ 両手を合わせて弾く時の合わせる タイミングがよくわからない	19名 : 50.0%	16名 : 64.0%	3名 : 23.1%
⑤ その他(以下記述内容) [a.右と左で違う音を弾くと混乱する b.練習に飽きる c.曲を知らない d.音楽の速さがわからない]	5名 : 13.2% [a. b. c. (2名) d.]	3名 : 12.0% [a. b. c.]	2名 : 15.4% [c. d.]

最も多かったのは「④両手を合わせて弾く時のタイミングがよくわからない」であり、全体で50.0%、入学前ピアノレッスン歴「全く無い～3年未満」の学生では64.0%となった。次いで「②リズム(音の長さ)がよくわからない」が全体で47.4%、入学前ピアノレッスン歴「全く無い～3年未満」の学生では52.0%と多く、入学前ピアノレッスン歴「3年以上」の学生では38.5%と最多であった。「①音符(階名)がすぐに読めない」は、全体では36.8%であったが、入学前ピアノレッスン歴「全く無い～3年未満」の学生では52.0%と、半数以上の学生が選択した。「③指番号が合っているのかわからない」は、全体では34.2%であったが、入学前ピアノレッスン歴「全く無い～3年未満」の学生では44.0%と、半数に近い学生が選択した。また、「⑤その他」では、「曲を知らない」や「音楽の速さがわからない」などの記述が見られ、音楽のイメージを掴めないことで練習のつまずきを感じる学生がいることもわかった。

(3) 設問3.ピアノ練習中に、該当曲を弾いている手元を写した動画をスマホで視聴できるとしたら参考にしてみたいと思うかについては①～⑤の選択肢から選択してもらい、その理由を記述してもらった。その結果、「①とてもそう思う」が20名(52.6%)であり、「②そう思う」の5名と「③ややそう思う」の9名を合わせると34名(89.5%)となった。「④思わない」は4名(10.5%)、「⑤その他」は0名(0%)となった(図3)。

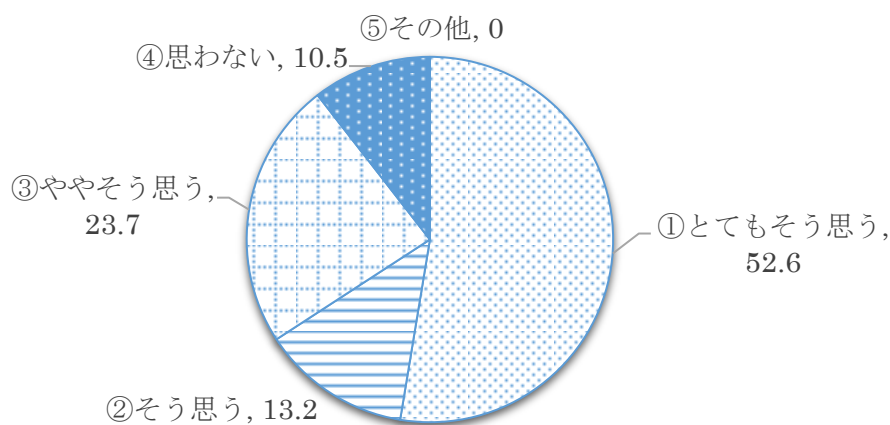


図3. 設問3. (ピアノの練習中にスマホの動画を参考にしたいと思うか) に対する回答

その理由に関する記述内容を「思う」と「思わない」に分類して見てみると、「思う」の中で「リズム」を含む意見を10名(26.3%)、「指番号・指の動き」についてを12名(31.6%)、「音楽の速さ」についてを4名(10.5%)が記入していた。また、「YouTubeでは様々な弾き方があるため、学校指定のものがあると助かるから」などの、これまでも動画を使用したことがあると思われる学生からの意見も4名(10.5%)あった。「楽譜どおりに正確に弾きたいし、お手本がほしいから。」や「自分の思い込んだ音楽で弾いてしまうことがあるので、本当のリズムや速さを一度正しく聴きたいから。」といったような、「お手本となる」という意見も4名(10.5%)あった。その他には、「1人で練習するときに分からないところがあるから、あるとうれしい。」「動画をいつでも見られるのは嬉しい」「楽譜では分からないことが分かって良いと思う。」といった意見があった。次に「思わない」では、「視聴しても弾けるようにならないと思う」という意見が3名(7.9%)、「自分でできる」という意見が1名(2.6%)あった(表2)。

(4) 設問4.動画を参考にしたいと思うと回答した人に、あったら参考にしたいと思う動画を、以下のア.～ク.の中から必要性を感じる順に3つ選択してもらった。

- ア. 弾き歌いの課題曲 (1年生前期:「おはようのうた」など)
- イ. 弾き歌いの選択曲 (1年生前期:生活の歌・春～夏の歌)
- ウ. 弾き歌いの課題曲 (1年生後期:「はをみがきましょう」など)
- エ. 弾き歌いの選択曲 (1年生後期:生活の歌・秋～冬の歌)
- オ. バイエル教則本 (No.18～44の中で学生が試験曲として多く選んでいる曲)
- カ. バイエル教則本 (No.45～65の中で学生が試験曲として多く選んでいる曲)
- キ. バイエル教則本 (No.66～86の中で学生が試験曲として多く選んでいる曲)
- ク. バイエル教則本 (No.87～106の中で学生が試験曲として多く選んでいる曲)

表2. ピアノの練習に関するアンケートより

設問3. ピアノの練習中に、該当曲を弾いている手元を写した動画をスマホで視聴できるとしたら参考にしたいと思うか。		
分類	選択肢	理由
思う	①	リズムや指番号を見て練習したいから
	①	リズムや速さが分からないときに参考にできるから。
	③	リズムや音楽のスピードを知りたいから。
	①	リズムが分かるから。
	②	リズムがわかるから。
	①	リズムがズレたりすることがあるから
	①	指番号も分かるし、リズムも確認しながら練習できるため。
	①	指番号に不安があるので、視聴できたら練習しやすいから。
	①	指番号が分からない時に視聴したいから。
	②	指番号が分からないときに確認できる。
	①	指番号が分かっても弾き方が分からないときがあるから
	①	指の使い方と音を把握できるから。
	①	指の動きを見て、音をきくことで、弾きやすくなるから。
	②	指の動きが分からないときがあるから。
	①	1人で練習するときに分からないところがあるから、あるとうれしい。
	③	1人でもできるから。
	③	速さや強弱のつけ方やリズムを確認するため
	①	動画をいつでも見られるのは嬉しいから
	③	使うときと使わないときがありそうだから
	③	使いたいと思う
	②	正しい指番号を確認できるから。
	①	自分の思い込んだ音楽で弾いてきてしまうことがあるので、本当のリズムや速さを一度正しく聴きたいから。
	③	視聴できるのはありがたいけど、見て行く機会がない。
	①	鍵盤の場所がすぐに分かるし、速さ・リズム・テンポや弾き方なども見ながら学ぶことができるため。
	③	曲によっては分からないのもあるから
	①	楽譜どおりに正確に弾きたいし、お手本がほしいから。
	①	楽譜では分からないことが分かって、良いと思う。
	①	音符がスラスラ読めないから
	③	音程が分からないときと指が分からないときだけ使いたい。
	③	音やリズムが聴きたいから。
	①	お手本をみながら練習した方が早く弾けるようになると思ったから
	②	お手本があった方が練習しやすいから。
	①	今までの練習でも使用していたから
①	YouTubeでは様々な弾き方があるため、学校指定のものがあると助かるから。	
思わない	④	見たところでよくわからないから。
	④	自分でできるから
	④	視聴をしても自分が弾けるわけではないし、指番号も練習しないと改善されないから。
	④	視聴しても弾けるようにならないと思う

そして、選択された数による順位と、必要性を感じる順を加味した（1位：3点・2位：2点・3位：1点）点数による順位を出した。選択された数による順位は、第1位「エ．弾き歌いの選択曲（1年生後期：生活の歌・秋～冬の歌）」、第2位「ウ．弾き歌いの課題曲（1年生後期：「はをみがきましょう」など）」、第3位「ク．バイエル教則本（No.87～106の中で学生が試験曲として多く選んでいる曲）」となった（図4）。必要性を感じる順を加味した点数による順位は、第1位「ウ．弾き歌いの課題曲（1年生後期：「はをみがきましょう」など）」、第2位「弾き歌いの選択曲（1年生後期：生活の歌・秋～冬の歌）」、第3位「ク．バイエル教則本（No.87～106の中で学生が試験曲として多く選んでいる曲）」となった（図5）。どちらにおいても、第1位と第2位は、この調査を行った時期に学生が練習に取り組んでいる弾き歌いの曲となり、第3位はバイエル教則本No.87～106の中で学生が試験曲として多く選んでいる曲、となった。そして、弾き歌いの曲とバイエル教則本のどちらを必要としているかを見るために、必要性を感じる順を加味した点数のア．～エ．の合計とオ．～ク．の合計を比較してみると、ア．～エ．（弾き歌いの曲）の合計が153点、オ．～ク．（バイエル教則本）の合計が57点であった。

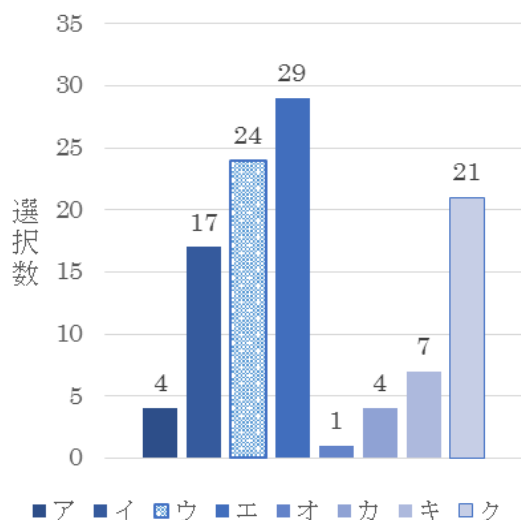


図4．設問4．（参考にしたい動画）の回答

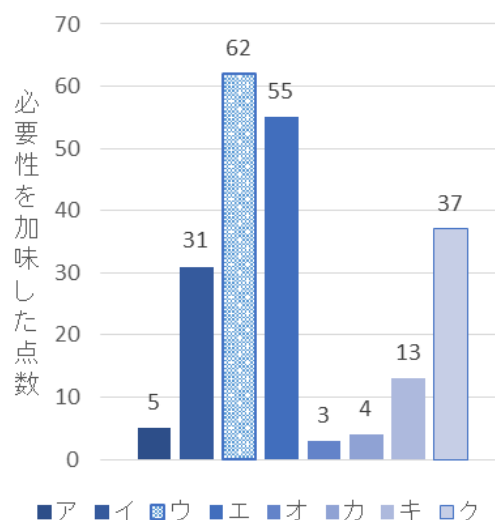


図5．設問4．の回答をもとにした点数

(5) 設問5.では、ピアノの練習に際してこれまでに参考にしたこのあるものを尋ね、以下の①～⑤より複数回答可で選択してもらった。

- ① 練習している曲を友達等に弾いてもらって参考にした。
- ② 練習している曲の音源（CDや音楽配信サービス等）を聴いて参考にした。
- ③ 練習している曲の動画（YouTube等）を視聴して参考にした。
- ④ 自分の楽譜を見て練習するのみで、参考にしたものは特にない。
- ⑤ その他（ ）

その結果、「④自分の楽譜を見て練習するのみで、参考にしたものは特にない。」は7名（18.4%）であり、残りの31名（81.6%）は何らかのツールを参考としていることが分かった。そして、一番多かったのは「③練習している曲の動画（YouTube等）を視聴して参考にした。」の24名であった（図6）。「⑤その他」は、「レッスンの先生から動画を送っていただいた」3名を含む5名であった。

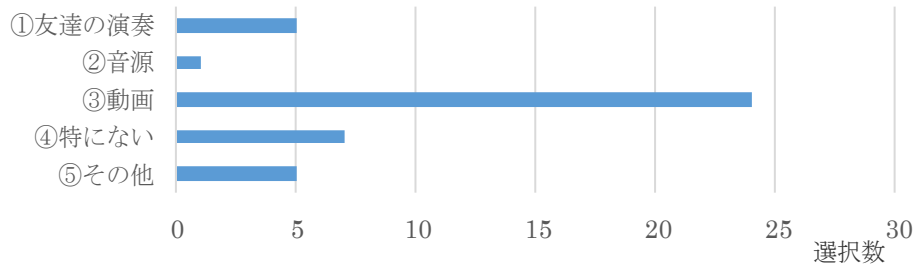


図6. 設問5. (ピアノ練習に際してこれまでに参考にしたことのあるもの) の回答

Ⅲ. 演奏動画の配信へ向けて

今回の調査において、学生がピアノの練習でつまずきを感じる時は、両手を合わせて弾くタイミングが分からない時や、リズム（音の長さ）が分からない時だということと、ピアノの練習中にその曲の手元を写した動画がある方が良いと思っている学生が多いということがわかった。さらにその理由としては、指の動きや音楽のリズム、速度等を参考にしたいという意見が多かった。

これらのつまずきを解消し、学生の自主的なピアノ練習を促す方法として、筆者らはスマートフォンで視聴可能な演奏動画の配信を検討中である。具体的には、第一著者がピアノを演奏している手元を写した動画を YouTube に投稿し、その動画の公開範囲を限定して履修学生のみが視聴できるように設定することで、学生がいつでもスマートフォンで視聴できるようにすることを検討している。このような取り組みに対して、動画を真似しながら弾くだけの練習では譜面から音楽を理解する力が養われないという批判もあるだろう。しかし、どのように演奏したら良いのかが分からなかったり、自分なりに弾いてみてもそれが合っているのか分からなかったりする状態では、自主的に練習を続けていくのは困難であろう。譜面から音楽を理解する力はもちろん大切であり、別途養う必要はあるが、動画配信によって期待できる効果も大きいと考えている。また、学生が、配信された動画を基に自身の楽譜の理解が正しかったのかを確かめられるため、練習意欲が向上し、楽譜やピアノに触れる時間が長くなることによって、結果的には譜面から音楽を理解する力も総合的に高まっていくのではないだろうか。そして 24 名の学生が、練習している曲の動画 (YouTube 等) を視聴して参考にした経験があるという調査結果は、動画配信という取り組みが学生に受け入れられやすいものであることを示唆しているといえよう。なお、本学の「器楽Ⅰ・Ⅱ」では、『バイエル教則本』と『簡易伴奏によるこどもの歌ベストテン〈改訂新版〉』、『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』をテキストとして採用している。調査結果 (図4、図5) からは、どの曲の動画を作成しても有効であると考えられるが、まずは希望の多かった弾き歌いの曲 (「子どもの歌」) から動画を作成し、配信をしていきたい。

引用文献・参考文献

- 1) 東真美子(2017),「本学保育科学生のピアノ技術向上を目指して(2)―「子どもの歌」弾き歌いの使用教材について―」,『宮崎学園短期大学教育研究』,第13号,pp.91-94.
- 2) 東真美子(2018),「保育者養成校における音楽教育―「子どもの歌」のレパートリーを増やすために―」,『宮崎学園短期大学研究紀要』,第10号,pp.161-174.
- 3) 児嶋輝美・古本奈奈代(2015),「保育士の音楽表現に関する保育の満足度と表現技術等との関連について」,『一般社団法人全国保育士養成協議会 保育士養成研究』,第33号,pp.81-88.